

認知症について考えよう



「認知症」とは、様々な病気により脳の神経細胞の働きが徐々に低下し、認知機能（記憶・判断力）が低下して、社会生活に支障をきたした状態をいいます。

認知症の方は年々増えており、厚生労働省の調査では、2025年には約471万6千人（65歳以上の高齢者の約7・7人に1人）が認知症になると予測されています。

また65歳未満で発症するケースも少なくなく、認知症はだれもがなりうる病気と考えられています。

9月は世界アルツハイマー月間

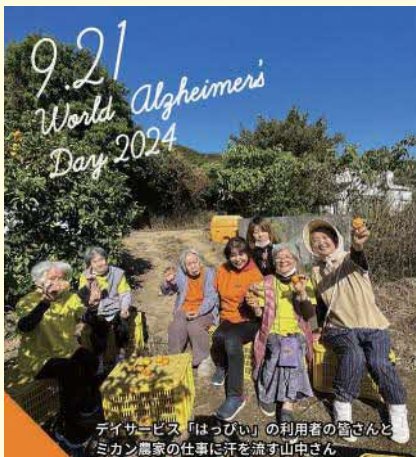
1994年、国際アルツハイマー協会が9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定しました。また、9月を「世界アルツハイマー月間」とすることで、認知症に対する理解を広げる活動を進めてきました。

また、2024年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」、通称「認知症基本法」により、9月21日は「認知症

の日」、9月は認知症月間と定められました。

※「認知症基本法」とは

令和6年に国が制定した「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」のこと。認知症の人が自身の尊厳を持ち、希望を抱いて生活を送れるよう、国や地方公共団体の責務などについて定めたものです。

共に生き
ともに歩もう
認知症

世界アルツハイマーデー
(認知症の日)
9月21日は世界アルツハイマーデー（認知症の日）です。
公益社団法人 認知症の人と家族の会

八頭町の取り組み

町も認知症への理解を深め、地域で見守り支え合う体制づくりをすすめるため、さまざまな取り組みを実施しています。

○認知症を知ろう・学ぼう

町内各図書館で、9月末まで認知症に関連した大人、子ども向けの推薦図書等の紹介や展示、貸出を行っています。



今年の展示の様子

○認知症サポーターの養成

認知症の人や家族を温かく見守る「認知症サポーター」の養成講座を開催しています。令和4年度からは、県立八頭高等学校で講座を開催し、高校生の認知証サポーターも誕生しました。企業、学校、自治会など、概ね5人以上を対象に出張講座も行っています。受講を希望される方は、地域包括支援センターへご相談ください。



高校生サポーターによる啓発活動

問い合わせ先

地域包括支援センター

☎ 72-3574

11 住み続けられるまちづくりを



16 平和と公正をすべての人に



認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続ける

今、認知症基本法が成立し、認知症の原因に作用する新薬の承認がはじまるなど、医学や認知症の人の意思を尊重したケアなどが進歩しつつあります。

子どもから大人まで、一人ひとりの認知症への理解が深まり、認知症にやさしい地域づくりが進めば、誰もが希望をもてる社会が実現するはずです。

認知症月間を機に、認知症について改めて考えてみませんか。

まちの話題

話題・情報は、企画課へ

TEL 76-0212 FAX 76-0222
eメール yazu-kikaku@town.yazu.tottori.jp



八頭町では、満百歳を迎えられた方をお祝いする長寿表彰を行っています。
7月20日に下田 澤子さん(郡家)が満百歳を迎えられ、町長から寿詞などが贈呈されました。
これからお元気にお過ごしください。

**おめでとうございます
百歳を迎えられました**



町長表敬訪問した八頭ボーイズ竹内会長(左)と
右から、大田監督、石橋選手、秦主将

**八頭ボーイズ
5年ぶり4度目夏の全国大会出場へ**

硬式野球クラブ「八頭ボーイズ」が、6月下旬に開催された公益財団法人日本少年野球連盟(ボーイズリーグ)主催、第55回日本少年野球選手権大会山陰支部予選において優勝。8月2日から大阪シテイ信用金庫スタジアムなどで開催される本戦、夏の全国大会へ山陰支部の代表として出場が決まったことを、吉田英人町長に報告しました。
中学部主将の秦慎之介選手は「いつも練習で町のグラウンドを使わせてもらっているおかげで勝つことができた。全国大会では、一勝でも多く勝ち進みたい」と意気込みを語ってくれました。



全国大会への切符を初めてつかんだ
八頭バレーボールクラブの選手たち

第44回全日本バレーボール小学生大会鳥取県予選で初優勝を果たし、全国大会への出場を決めた八頭バレーボールクラブの選手たちが、吉田英人町長を表敬訪問しました。
キャプテンの中尾結菜選手は「全国大会の大舞台を楽しんで、一勝できるようにがんばりたい」と意気込みを語ってくれました。
8月6日、7日に開催された全国大会では、惜しくも一勝をあげることはできませんでしたが、山根義人監督は「貴重な経験をさせてもらった」と話していました。

**八頭VC全日本バレーボール
小学生大会出場**